

人の温かさの中には違う人も
この年になってしみじみ感じました

安齊邦久さん（八十年代）
安齊昭子さん（七十代）

水害による被害

〈邦久さん〉床上から一メートル二十センチまでなりました。

〈昭子さん〉その橋（藤井新橋）あったでしょ。あの堤防が崩れてなくなっちゃった。前回昭和六十年に水害あったときには、床上四十センチ。普通の座卓にテレビでも何でも載せれば大丈夫で、それで済んだんだよね。

〈邦久さん〉堤防もしっかりできたはずだから、そんな水出るはずないよって高くくって。〈昭子さん〉それで全部何から何まで（被害にあった）。私ね、広報で高齢者避難しろって言うてるよって、とにかく行って大丈夫だったら帰ってくればいいんだからって主人に言っただけが助かったんです。

早めに市民センターへ避難

〈昭子さん〉（避難先は）市民センター。それが四時頃、前の日の。だからまだここ決壊する前に。早く避難しすぎたもんだから。でも岩根町の奥の方の人は、車だけ高いところに移して二階にいれば大丈夫って思ったらしくて、それでヘリコプターとかボートで助けてもらうことになっちゃったんですよね。だからそういうの思ったら、何もなくなっちゃったけど身体が助かったからしょうがないから。

〈邦久さん〉水浸かってすぐはければ、それほど被害が大きくなかったね。でも、ボートが救助に行けないからって堤防（水門）開けてくれなかった。池みたいな状態になっちゃう。〈昭子さん〉ボートで助けに行くのには、やっぱりある程度水ないと駄目なんで、人命が大事だから、人命救助してからじゃないと水門を開けられないって。

災害ボランティア

〈昭子さん〉毎日毎日、避難所から昼間だけ、一生懸命片付けと掃除して、五時にはまた市民センターに帰って行って、夜真つ暗でしょ。だから（家のものを勝手に）持ってっちゃう人も中にはね。だって、重い金庫までなくなってますよ。戸棚から何から、まさかなくなるとは。あちからこちから人が来ましたよね。それの中には何かいいもの出てこないかなって。いらないうって聞いたら、それをもらえんじやないかって人も。だからボランティアも大勢ぐればいいってもんじゃないみたい。

〈邦久さん〉若干知識がある人ならいいけどね。もう水に浸かったものは全て捨てていいんだらうって言う感じですよ。天然素材のもの（木材・陶器・金属など）は洗って十分に干せば元に戻ることが後で分かった。

〈昭子さん〉着物やタンスも何竿捨てられたかわかんないぐらい。（今あるものは）みんなもらった。私が来られなくなると寂しいからって先生が持ってきてくれたり、あとお友達ももう着ないからって。（茶道の）お茶の御茶碗とか窯とか。

ボランティア最後の頃です。十一月になった頃、社協で知ってる人が電話かけてくれたんで、

まだずっと物置の方で洗えない、自分で階段から下ろせない、って言ったら男の人とお茶のこわかる女性で二人で来てくれて、きれいに洗ってくれた。塗物は、日に当てちゃ駄目だから中に干してくれてね、それが嬉しかった。残ったものがあつたって。それと、そういうふうにはわかる人探してくれたのがね。本当、人の温かさ、中には違う人も。そういうのはこの年になって、しみじみ感じました。

小学校から飯富で

〈邦久さん〉私が生まれたのは東京なんですけど、父がここ（飯富）で製材工場をやって。私の家は世田谷の「東松原」っていう駅のすぐそばでした。戦争で駅の周りは立ち退き命令になったので、それで逃げてこち来て小学校からは全部ここだったのです。この辺は藤井駅があつた頃なので。この道路は線路だったのです。

結構大きい駅だったんですよ。那珂川に渡し舟があつて、川の向こうからの人や荷物も来てね。ここで乗せてからという人が結構いたそう。あと、城里町上入野の方からも藤井駅来て、乗って。ここは別のホームがあつて、列車が交換、すれ違いができたんですよ。

〈昭子さん〉トロンコ橋っていう名前の橋があるんですけど、それはトロッコ橋がトロンコ橋に。

〈邦久さん〉那珂川から砂利を運んで、この駅から、その砂利を積んで貨物で、運んでたんです。砂利を、線路のレールの下に敷くのに使ったりコンクリートの材料にした。それを駅から積み込みするのに、トロッコで押して、運んでたんだよね。それでトロッコ橋はトロンコ

橋になっちゃった、なまって。砂利をトロッコに積んで運んで駅で貨物列車。

子どもの頃と今の川の流れの違い

〈邦久さん〉戦時中は、床上あがるまでの水害はそうはなかったですけども、(水害は)年に十回近くありましたね。それはみんな那珂川だよね。那珂川の堤防が低かったんで、堤防が決壊して、みんなこっちに流れてきたんですよ。大体那須の方で二百ミリ以上降ったらば、危ないよという。栃木から水が来るんですよ。大雨で警戒水位突破したよっていう那須の方の話聞いて、大体ここは八時間後にいっぱいになると。その頃見計らって、川のそばに行くと、水位がどのぐらい上がってるか見ながら。川が結構蛇行してましたから。だから、流れが遅かったんです。今は大体六時間くらいで来ちゃいます。堤防等を作っちゃってまっすぐにして流れが良くなったからね。大昔は那珂川が藤井の高いところの手前のところずっと蛇行をして流れてましたね。

この辺は、那珂川の中州みたいだったんで、水害は起こりやすい低い土地なんですよね。だからよく自然は昔のこと覚えてるっていうのは、この間堤防が決壊したところ、あそこは藤井が蛇行してたところ。川をまっすぐにするために堤防を作っちゃってふさいじったもんね。曲がった底が抜けたんです。

地域コミュニティ

〈昭子さん〉二、三日前もね、裏の奥さんといろいろ話したんだけど、やっぱり子ども会や何かもみんななくなっちゃったんです。水害や

何かがあって子どもたちが残ってくれなくなっちゃう。ほとんどがよそで暮らしちゃって、子どもたちは戻りたくない。あの頃楽しかったねと言ってるね。お神輿やったり、お祭りやったりね。子ども神輿は私達が作ったんですよ。建具屋さんがちゃんとお神輿作ってくれたり、楽しかったよねっていう話をしたんですよ。常会もなくなくなっちゃったんです、家んどこ。この地区としてはうちなんか新住民だったはずなんですけど、それが一番古いですね。

この家の設計私がして、図面から書いて大工さんに建ててもらった家なんですよ。だから逃げたくない。動けなくなるまでいるつもりです。



堤防が決壊した藤井川



藤井町の様子